

## 「音をまとう」……？

### @KCUA の展示室に、音を楽しむ実験エリアが出現！

### 「聞く／聴く」からはじまる探究のかたち



共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」ワークショップの様子／撮影：吉本和樹

日本語の「きく」という言葉は、さまざまな意味を持っています。音や声を耳で感じることに、受け入れること、尋ねること、耳を傾けること。また、聴覚に限らない感覚を働かせて識別することもまた、「きく」の持つ意味の一つです。そして、いずれの「きく」も、情報を認識し、それを受け止めるという点で共通しています。その情報をもっと知ろうとするとき、「聞く」は「聴く」へと変化するのです。それは「探究」のはじまりであり、情報の送り手と受け手の間の関係性が深さを増していくことのあらわれでもあります。

本企画では、こうした「聞く／聴く」を起点とする探究から生まれる芸術実践に注目し、そのあり方と可能性について探ります。

まず、展覧会は美術家・ファッションデザイナーの西尾美也、音文化研究者・サウンドアーティストの

# 「聞く／聴く：探究のふるまい」

京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA Press Release 2024.8.11

@KCUA

柳沢英輔と本展企画者による、装いとコミュニケーションのあり方を広義的に捉え、音や環境との関係性から分析するための共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」に関するセクションからはじまります。ここでは、当研究テーマにリンクする西尾・柳沢の作品に加え、京都市立芸術大学と東京藝術大学の学生によるアクション・リサーチなどの研究プロセスの展示と、誰でもこの研究に参加できる実験エリアを展開します。

また、「聞く／聴く」に関連した学術的な芸術実践の海外での事例として、アーティストの研究を支える新たな博士課程制度「Creator Doctus」を修めたオランダ拠点の作家、フェムケ・ヘレフラーフェンによる、声、予測、AI、病気、コミュニティと死の間の複雑な関係を取り上げた近作、そして香港拠点の作家、ジェン・ポーが生物多様性と土壌生態学、植物の適応研究を専門とする二人の科学者と協働した作品シリーズを展示します。また会期中に、ジェン・ポーが2023年3月に京都で実施したトークシリーズをウェブサイトにて公開します。

これらの新たな「知」を拓こうとする「探究」としての芸術実践との出会いが、それぞれの「聞く／聴く」を深める場となることを願っています。

## 開催概要

### 「聞く／聴く：探究のふるまい」

会期：2024年8月24日（土）－10月14日（月・祝）10:00–18:00

会場：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

休館日：月曜（9月16日（月・祝）、9月23日（月・振休）、10月14日（月・祝）は開館、9月17日（火）、9月24日（火）を休館）

入場：無料

出展作家：ジェン・ポー、西尾美也、フェムケ・ヘレフラーフェン、柳沢英輔

共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」

主催：京都市立芸術大学

助成：公益財団法人野村財団

企画：藤田瑞穂（京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA チーフキュレーター／プログラムディレクター）

## 出展作家プロフィール

### ジェン・ポー

1974年北京生まれ、香港在住。白族の血を引くエコ・クィア・アーティスト。地域の歴史についての緻密な調査から、政治的な史実、アーカイブなどの過去の事物の調査にそれらを結びつけ、雑草などの植物と協働しながら未来について考察する作品で知られる。近年は、ドローイング、ダンス、映像を通して、台湾のシダ、北欧のコケ、ドイツのブナの木、アラビア砂漠のアカシア・トルティリスなどの植物との親密な関係を育んでいる。



ジェン・ポー 《The Political Life of Plants 2》2023  
／映像からのスチル

### 西尾美也（にしお・よしなり）

1982年奈良県生まれ。美術家、ファッションデザイナー／東京藝術大学美術学部先端芸術表現科准教授。専門は社会彫刻、行為の芸術。装いとコミュニケーションの関係性に着目したプロジェクトを国内外で展開。ファッションブランド「NISHINARI YOSHIO」を手がける。近年は「学び合いとしてのアート」をテーマに、様々なアートプロジェクトや教育活動を通して、アートが社会に果たす役割について実践的に探究している。



西尾美也 《Self-Select: Nairobi in Tokyo #1》2017

### フェムケ・ヘレフラーフェン

1982年ナイメーヘン生まれ、アムステルダム在住。抽象的な価値体系が歴史学や個人の生活、また生態学的に与える影響に焦点を当て、金融技術やインフラによって切り取られた物質的基盤、地理、価値体系に関する研究をもとに作品制作を行う。ストーリー性の高いミクストメディア・インスタレーションは、オブジェクト、彫刻、サウンドなどから構成される。近年は、言語、声、呼吸器系を用いて、社会的、生物学的、技術的な生態系の中に存在するマネタイズされた投機的な「カタストロフィ」を検証している。



フェムケ・ヘレフラーフェン 《The Murmur of the Dying》  
「Decoding the Black Box」での展示風景  
／ Galerie Stadt Sindelfingen, 2024



## 柳沢英輔

1981年東京都生まれ、専門は音文化研究、音響民族誌、映像人類学。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科修了。博士（地域研究）。主な研究対象は、ベトナム中部高原の先住少数民族が継承する金属打楽器ゴングをめぐる音の文化。ゴングをめぐる人々の知識、わざ、行動、信仰、表現などを「ゴング文化」と定義し、その動態について音響・映像メディアを活用した人類学的なフィールドワークに基づき研究を進める。また、場所の特徴的な響きに焦点を当てたフィールド録音作品を国内外のレーベルより出版している。



柳沢英輔 エオリアンハープの録音風景／撮影：月永進

## 共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」

人類学と芸術の領域横断的な研究として、装いとコミュニケーションのあり方を広義的に捉え、音や環境との関係性から考察する共同研究。メンバーは西尾美也・柳沢英輔・藤田瑞穂。芸術実践領域における学術研究の手法、評価のあり方の拡張など、芸術研究の新たな可能性を拓くことを目指している。



共同研究「わたしたちのまとうもの：装い、音、環境をめぐる考察と実践」ワークショップの様子／撮影：吉本和樹

## ■関連イベント

※2024年9月22日（日）、10月5日（土）に関連イベントを予定しています。

詳細は @KCUA ウェブサイトにてご確認ください。

## ■プレス向け画像貸出について

本プレスリリースに掲載している作品画像はメディア掲載時にご利用いただけます。

ご希望の方はお問い合わせください。

## お問合せ：京都市立芸術大学ギャラリー @KCUA

〒600-8601 京都市下京区下之町 57-1

Phone: 075-585-2010 / E-mail: gallery@kcuu.ac.jp

<https://gallery.kcuu.ac.jp>

JR・近鉄・地下鉄京都駅 徒歩6分／京阪七条駅 徒歩10分

バス：「塩小路高倉・京都市立芸術大学前」バス停下車すぐ

